

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800468		
法人名	有限会社 リフレッシュ		
事業所名	グループホーム彩	ユニット名	
所在地	福岡県嘉麻市口春735-3		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	平成26年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成26年7月30日	評価確定日	平成26年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の希望や本人のペースに合わせ不安なく安心して過ごせるように努力しています。ホームを我家のように居心地よく快適に過ごして頂きたく本人の思いを早くみ取り実現できるように努力します。本人・家族又は親類の関係も円満にいきます事がグループホーム彩にとって最高の幸せです。本人がいつまでも生き生き暮らせますように願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

嘉麻市にある“グループホーム彩”の玄関には、幼稚園児が育てた朝顔が置かれている。天井が高く、開放感のあるリビングでは、園児や地域のボランティアの方と一緒にお手玉の交流が行われ、楽しいひと時を過ごす事ができた。日々の生活では、ホーム周辺の散歩も行われ、玄関先のベンチで日向ぼっこをされる方もおられる。四季の変化を感じる事ができ、ご利用者が育てて下さる野菜は、日々の食材として使われている。お盆前には、ご利用者も一緒に提灯作りに取り組み、四季折々の地域行事やホーム行事(紫蘇ジュース作りなど)も続けられている。家族の面会も多く、行事への協力もして下さり、職員も嬉しく思っている。彩ファミリーは次第に広がり、家族や地域の方々との交流の機会も作られ、地域における重要な拠点の1つとなっている。管理者を中心に職員のチームワークも良く、溢れるアイデア(企画)を実践し、理念にある「皆様が地域人として生活できるように…」日々の取り組みを続けているホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人のペースを大切にさせて頂いています。地域の方々と多く触れ合うことが出来るように、地域行事に参加させて頂き、幅広く声をかけて頂いています。	「笑顔、寄り添いそれが私たちの幸せです」と言う理念を職員は大切にされている。ご利用者は彩ファミリーの一員として、好きな事を笑顔でされており、幼稚園との交流も楽しんでいる。研修や取材の受け入れ等も行い、ホームとしてできる事を日々実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを継続させて頂けるように、交流の場を大切にさせて頂いたり、ホーム周辺で顔見知りになったり、会話を大切にさせて頂いています。	前回の外部評価以降、幼稚園にご挨拶に行かれた。「昔の遊びを教えてください」と幼稚園の先生からも言って頂き、地域のボランティアの協力も頂き、ホームで幼稚園児とお手玉を楽しむ事ができた。高校生との交流も続けられ、地域の方から漬物や手作り味噌なども頂き、有難く思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの方より、ご相談を受けたり交流が広がっています。また、運営推進会議を通して、認知症の関わりをテーマとすること事が多く、市より依頼を受けて市民公開講座をさせて頂く機会もありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報の交流もスムーズに出来る関係づくりができています。いつも楽しみにしているという声も聞かれるようになりました。	会議の場で「家族とお話したい」という意見も上がり、スイーツバイキングを行い、多くの家族と過ごす機会が作られた。庭でのバーベキューも楽しまれ、皆さんで情報交換が行われた。戦争の話題になった時は飛行場見学を企画し、更なる思い出話に発展する機会となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	信頼関係も構築でき、話しやすい良好な関係が保たれています。	開設時から市の担当者との協力関係は築かれている。必要に応じて相談を行い、毎回親身に対応して頂いている。市からの依頼を受け、生活介護支援サポーター養成研修で介護技術の講師をさせて頂いたり、地域包括からの要請で、県立看護大学の研修を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束の研修を受けており、ホーム内においても研修を重ねている。拘束をしないケアは変わっていません。	ご利用者の心身状況の把握を行い、職員が連携を行いながら見守りが行われている。車いすの設置場所等の配慮も行い、転倒予防に努めている。ご本人の要望も把握し、「行きたい場所」「やりたい事」等の実現にも努めており、ご利用者の方々も穏やかに過ごされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に虐待が起こらないように職員の教育・資質の向上を目指しています。職員のストレスを未然に防ぐ事が虐待防止につながると考えます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学び伝達研修も行なっている。今回、運営推進会議でも理解を深めることが出来るように法務局の方に説明を依頼している。	26年6月の運営推進会議で、法務局の方から「生前しておいたほうがよい事」などの講義と合わせ、権利擁護の説明もして頂いた。現在、制度を利用している方はおられないが、制度のパンフレット等を備え付け、入居時に家族に説明し、入居後も必要性の確認が行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には後でトラブルが生じないようにわかりやすい言葉で一つ一つ契約書に添って説明をしています。また、確認の意味で一度二部持ち帰って頂き再確認をしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見・要望・苦情の窓口を説明し、またホーム内にアンケート・意見箱を設置しています。また、ご家族の来訪の際には必ず現状報告・支援経過を見ながら意見を聞くようにしています。即、相談・解決へとつなげています。	22年5月に初めて行われた家族会(スマイル・ファミリー)を継続しており、毎回楽しい企画の中で家族同士の交流が続けられている。日々の面会時にも管理者や職員が家族の思いを親身に伺い、解決に向けた支援を続けている。退居された後も、家族との交流が続けられている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員には感謝の気持ちとスタッフの現場の声を大切にしています。改善できるところは早急に対応していき、体調・疲労・精神面にも常に気を配っています。	月に2回ミーティングが行われている。運営者は職員の気持ちを大切にしており、日々の現場で職員の気持ちを共有するように努めている。職員からは色々なアイデアが聞かれ、新人職員の意見にも“それはいい！”と上司が返しており、意見を言いやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲をもてるように一人一人の役割分担責任者としています。また労働条件、休憩も確保しています。研修も行きやすいように便宜を図っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人権を尊重し採用しており本人のやる気を考慮しています。本人の意欲を充分發揮できるように支援しています。	職員の採用にあたり、性別、年齢等の制限は行っていない。その方の介護についての考えを伺いながら、仕事への意欲や優しさ、笑顔の素敵さ等を大切にしている。パソコンや飾りつけが得意など、職員個々の特技を發揮して頂いており、外部研修等の受講費用も支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権・プライバシーに関しては、日々業務の中で指導しています。また、研修にて知識を深め伝達しています。	管理者(運営者)は日々の業務の中で、「利用者が一番に、利用者を大切に、利用者より多く関わって下さい。低姿勢で・・・」と伝えられている。優しい職員ばかりで、「笑顔で寄り添う」姿勢が続けられている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々ケアの中で学ぶ事も大切であるが、積極的に研修を受けて頂けるように支援しています。また、研修で学んだことは他のスタッフにも伝達講習して頂きスタッフ全員で向上しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流も積極的もあり、認知症グループホーム協議会のブロック長も引き受け親睦を深めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学相談の段階により本人の思いを考慮し、短時間の体験も行っています。入所時には馴染みの家具・寝具・洋服等をご自分のお部屋に入れて頂いています。少しでも早く慣れて頂く為に、ミーティングにてスタッフに周知し情報を共有し入所準備としています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安要望に近づけるようにケアプランに導入しています。早めに信頼関係が築けますように納得のいくまでお話をさせて頂きアセスメントを周知しケアプランを共有しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを受け止め家族が何でも話して頂けますように話しやすい雰囲気づくりに努力しています。また、安心したサービスがスムーズに開始できますように家族一体となり支援しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様本位を念頭においていますが甘えたり甘えられたり支えたり支えられたり感謝の言葉が多く聞かれています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	彩ファミリーは、本人だけでなく家族とも仲良くさせて頂き信頼関係も構築できています。行事参加・外出応援・面会も多くいつも家族に支えられています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会行事や地区行事に参加させて頂き馴染みの方との交流があり、お友達の面会も多いようです。誰でも来やすいように温かい姿勢に努めています。	馴染みの行事である“おしおいとり(川の土を取って供養し、無病息災等を願う)”のために寺社にお連れし、参拝する機会が作られている。お寺参りに家族と行かれる方や、以前の仕事仲間の集まり(OB会)に家族や職員が送迎している。職員の送迎で理容室に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	握手したり車椅子を押してあげるなど思いやりが多くみられます。また、居室のお花にも水をかけてあげるなど利用者同士が支えあっています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し、3年5年経っても本人がいる時と同様暖かい支援が続いています。旬のもの、畑で採れたもの、本人が好きだったものや草刈りや玉ねぎ植えから収穫、道路整備まで、草の伸びを監視されているようで「これは私の仕事」といって汗びっしょりになって整備してくれます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合わせる事、本人のペースを守ることを基本として、困難時には家族にアドバイスを頂いている。	センター方式を活用し、ご利用者の生活歴や思いを大切に把握している。意思疎通が難しい方も多くの言葉をかけ、その都度の表情や様子から思いを汲み取るようにしている。「行きたい場所」「やりたい事」等、その方が語られた思いや言葉を記録に残し、職員同士で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し生活歴や暮らし方が把握しやすくなっています。スタッフ全員で回覧し情報を共有しています。生活していく中でヒントがたくさん含まれておりサービス利用されている中で宝物となっています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを守りながら、その人の視点に立ち力量を考えながら支援しています。また、一人一人のその日の心身の状況を把握し柔軟に対応しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のペースを守る事を基本に快い環境のケアプランになっている。本人、家族の思いを言いやすいように努力しています。	野菜作りや草むしりなどの役割と共に、お酒などの嗜好や買い物などの楽しみも計画に盛り込まれている。家族が持参して下さった時代劇のDVDを見られている方もおられ、入浴介助、外食など家族の役割も明記されている。医師の指示も頂き、リハビリ内容も盛り込まれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホームで楽しく暮らしていきたいを念頭におきながら、日々ケアの中でスタッフで情報を共有し介護計画を見直し実践していき、気づきの段階で家族に相談・説明をしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方のニーズに合わせて楽しみを増やしていけるよう努力しています。日々の状況に柔軟に対応しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、馴染みの場所に外出しています。地域のボランティア、地域の交流も大切にさせて頂いています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が24時間365日体制で支援して下さっていますが、他科受診の際にはスタッフが同行しています。家族と受診することを外出の楽しみともされています。	医師との連携が取れており、管理者と職員も心強く思っている。職員の日々の観察力も高くなっており、管理者(看護師)への報告も密に行われ、早期発見・早期対応に繋げている。受診結果の共有も家族とできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経営者が看護師であり、早期に対応しています。観察にて異常時には緊急対応しています。不在時は、併設の看護師、訪問看護依頼など協力体制は出来ています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず入院時には経営者が引率しています。安心して治療できるように情報交換を行い、ご家族にもわかりやすく説明して治療が出来ています。また、主治医が総合病院の顧問であり、病院側も安心して早期に退院できるように配慮して下さっています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化・終末期支援の説明をしておき、ご家族に確認しております。事業所で出来ること、又、主治医により治療方針を説明され、同意の上、同意書にて確認を交わします。最期まで安心して暮らせるように24時間体制で支援して頂いています。	全員の方が「最期までホームで」と希望されている。24時間の往診や訪問看護体制もあり、終末期にはゼリー等の食べられる物を準備し、毎日の清拭も行われている。最終期には必ず看護師が夜間も付き添われている。医療方針については話し合いの場を何度も作り、家族の心の変化に寄り添い、適切なアドバイスができるように心がけている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々ケアの中で急変時や事故発生に対して指導しています。主治医の連絡体制も整っています。また、応急処置も理解しやすいようにマニュアルを作成しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練があり、火災装置・連絡体制を見直しました。スプリンクラーも設置されていますが、初期消火・誘導にも力を入れています。また、併設の施設と共動し夜間想定にて訓練を行っている。	ご利用者、消火設備機器の方と昼夜想定訓練が行われ、26年6月の訓練では消防団の方も参加して下さい。地区の代表者や近所の方、稲築病院、家族との協力体制も取られており、懐中電気・ラジオ・救急箱・毛布・ビニール・新聞紙・水・ビスケット・缶詰・カップラーメン等を準備している。	今後も災害対策を検討すると共に、訓練の回数も増やし(毎月)、全職員が実践できるように努めていきたいと考えている。過去に消防署との訓練も行われたが、今後も訓練への協力依頼を続けていく予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々ケアの中でご利用者様に対する尊敬の念をもって接することを常々指導しています。また、プライバシーを守り優しく接することを厳しく指導しています。優しさの中で安心して暮らしていただけますようにスタッフ間で話し合いを持っています。	“笑顔、寄り添いそれが私達の幸せです”という理念の通り、職員はいつも優しい笑顔で接している。入浴や排泄では羞恥心に配慮し、同性介助も行われている。今後もご本人のペースを大切にすると共に、“説得する”のではなく、“納得して頂ける”支援を続けていく予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースを守りながら自分の思いを伝えやすいような場面にもっていったり選択できるように働きかけをしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、ご本人のペースを守り本人の希望に添って支援しています。本人の意向を優先します。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの日があり、顔そりやマッサージ・マニキュアを塗って美しくなることをとても喜ばれています。お化粧を毎日される方もいらっしゃいます。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎年ホームで栽培された採れたて野菜の収穫を喜び、味わって食べられています。季節のもの差入れもつづいており、有難く頂いています。	毎食、調理担当の方が手作りされている。ご利用者も味見やテーブル拭き等をして下さり、紫蘇ジュースを作る時は、ご利用者が茎から紫蘇の葉を取る等のお手伝いをして下さっている。重たい物を持ってない方には軽目の食器を準備し、ご自分で食べられる工夫を続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を把握しており主治医に指導を受けています。食事量や飲水量は細かく計算され、排泄との関連もよく観察しています。また、個人によって調理方法も異なり誤嚥を予防しています。また、アレルギーにも気をつけています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせて見守り・介助・確認まで行っています。義歯は毎日洗浄も行っています。(含嗽水は紅茶を使用)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら同時刻にトイレへ誘導したりリハビリを強化し下肢の筋力をつけていく中で誘導がスムーズに行えるようになるなど力量に合わせた支援を行っています。	布の下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。便座の前方に手すりを付け、排泄時の立ち上がりがスムーズになられた方や、トイレのナースコールを前面にセットし、押しやすくする配慮も行われた。紙オムツ使用の方も陰部洗浄を毎日行い、ポータブルを使用する機会も作られている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し毎日牛乳を飲んでます。水分強化に努め野菜・果物・繊維の多い食事になっています。また、便座に座ったときに少しかがみになり腹圧をかけたり、マッサージ・肛門マッサージの刺激を与えるなど排便を促しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて臨機応変に入浴を楽しんでいます。	入浴日以外は、リビングで足浴マッサージが行われている。入浴時は職員との会話が弾み、季節に応じて屠蘇湯や菖蒲湯、柚子湯、ヨモギ湯等も楽しまれている。体調に応じてリクライニングできるシャワーチェアも活用し、シャンプーハットや耳栓等も使用し、安心して入浴できる工夫を続けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースを守り、本人の希望・状況に応じ、不安なく安心して休息できるように配慮しています。不安な時には横で添寝することも安心につながります。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを見ながらお薬をセットしています。薬の名前・副作用・用法など把握しています。また、お薬の変更時には特に注意を促し、カルテに書きとめ、効果・副作用等を理解した上で経過を見えています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、畑仕事、水やりと毎日役割を持ち、感謝することで喜ばれます。本人の楽しみ事や、外出も多く取り入れ、希望にそえるようにしています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に応じてレクリエーションを散歩に変えたり、近隣の外出においても人員を増員したり、ご家族に支援頂いたり外出できるように支援しています。	庭のお花や菜園の手入れをされる方もおられ、日常的にホーム周辺の散歩をされている。隣接する病院の敷地内には桜並木や藤の花があり、季節の花を楽しまれている。手作りのお弁当を持って、四季折々の花見にも出かけ、花立山温泉やキリンビール工場見学も楽しまれた。動物好きな方が多く、ピクニカ共和国にも行かれている。	外出の機会は多く、今後も四季折々の企画を続けていく予定にしている。ご自分の化粧品や身の回りの物の買い物の機会も増やし、社会性の維持(地域交流)にも努めていく予定である。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口の預かり金であるが、病院受診代・お買いもの・外食費など、お金を持参し、お支払いできるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族の事をお話したり、逢いたい様子が伺える時は、お電話をかけたり、お話ができるようにしています。また、郵便物もお願ひされることも多く、お手紙のやりとりもできている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の靴入れを購入し収納することで玄関に靴の乱れがないようになりました。下靴入れの上には、リビングと同じ季節のお花を飾るようになりました。	リビングは開放感があり、日差し対策に“よしず”を使用している。体感の違いにも配慮し、座席の工夫も行われている。園児の似顔絵と名前も飾られ、ご利用者も嬉しそうに眺めておられ、再利用できるフェルトを使い、季節に応じた作品が飾られている。マッサージ器や地域の方に頂いた卓球台も活躍している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先の椅子でたばこを吸われたり、スタッフ、家族とお話しをしたり快い空間となっています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、馴染みのものや使い慣れた好みのものを持ってきてもらっています。仏具や遺影も持って来られており、毎日、安心して過ごす事が出来ています。	壁には掛け軸を下げ、季節の飾りつけをされている方もおられる。ベッドで過ごす時間が長い方には、家族がベッド柵にぬいぐるみを飾って下さり、ご本人も眺めておられる。遺影を置かれている方は、家族が定期的に生花を持ってきて下さり、他のご利用者が花に霧吹きをして下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のリスクを考慮し、安全を保たれるようにセンサーも導入しています。また、ベッド柵を介助バーに変更し、本人の力を引き出せるように努力しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		